vintagetechnics.ru

DENON

SERVO-CONTROLLED
DIRECT DRIVE RECORD PLAYER

DP-70M

取 扱 説 明 書

このたびは、DENONオーディオ・コンポーネントをお買上げいただき、誠にありがとうございました。

DENONオーディオ・コンポーネント・シリーズは、現在NHKをはじめ民放各局で活躍している業務用製品に採用されている技術を生かし、広く一般のオーディオ・マニアや音楽ファンの方々のために企画、設計された高級オーディオ・コンポーネントです。

特　長

1．二重構造ターンテーブルによるS/N・ハウリングの改善

レコードが乗せられる上面ターンテーブルとモーターのシャフトが接触する下面ターンテーブルとはスプリングとダンピング材で連結されています。すなわち上面はモーター、キャビネットから振動的にみて遮断された状態になっています。したがって周囲の振動等でプレーヤーが揺らされたとしてもレコード面の振動は少なくなります。また、スピーカーから音響的にフィードバックされて生じるハウリングや音質の劣化に関しても上、下面ターンテーブルの振動モードの違いやダンピング材によるエネルギー吸収のため低減されます。

上面および下面ターンテーブルは回転方向には互いに動かない構造になっていますので、回転性能を悪くするような事はありません。

2．磁気記録応用のスピード検出方式

スピード検出と位相検出には、ターンテーブルに高精度に磁気記録されたパルスによるDENON独自の方式を採用していますので、検出周波数が高くとれ(1周1,000パルス)、サーボ系の位相遅れが少なくオーバーシュートやワウ・フラッターが非常に少なくなっています。

3．水晶発振器の採用により回転数偏差0.002%以下

回転数を決める基準発振器に温度変化や経年変化などの影響をほとんど受けない水晶発振器を用いていますので、回転数は極めて安定です。また、フェーズロックドサーボ方式によって負荷や電源電圧の変動によるスピードの変化はありません。

4．両方向サーボと電子式ブレーキ

本機は両方向にサーボをかけていますので、スタート時・スピード切換時の動作が速く滑らかです。また、ストップ時には、電子式ブレーキによりスムーズに停止します。

5．ダンピング機構採用のトーンアーム

トーンアームのボディ部およびカウンターウエイト部の2ヶ所にダンピング機構を設けたことにより、トーンアーム自体の分割共振を十分に制動できるとともに、キャビネット等から伝わる振動の影響を受けにくいので、カートリッジの持つ性能をフルに引き出すことができ、また、ハウリングに対してもさらに強くなり、安定したレコード演奏をお楽しみいただけます。

6．マグネチック形アンチスケーティング機構

新方式の無接触形アンチスケーティング機構を採用、レコード盤上の針先の位置によって変化するインサイドフォースを考慮し、どの位置でも適正なキャンセル量を得ることができるので、最良の状態でトレースができます。

7．トーンアーム・エレベーション機構

新開発のトーンアーム・エレベーション機構の採用により、カートリッジを交換した場合でも簡単にトーンアームをレコード盤面と平行に保つことができます。

8．高剛性、軽量、無共振ヘッドシェル

硬質軽合金をインパクト成型することにより剛性を高めるとともに、特殊粘弾性ゴムを組合わせることによってヘッドシェルの共振を効果的に防止しています。

9．防振効果の大きなターンテーブルシート

ターンテーブルシートは、レーザーホログラフィー干渉による振動解析によって開発したもので、音質の劣化を防止します。

10．水晶同期でパルス点灯のストロボスコープ

ストロボスコープのLEDは、基準の水晶発振器により分周した周波数精度の高い電源でパルス点灯していますので、ストロボ縞が見やすく商用電源周波数が変動しても、ストロボが流れることはありません。

梱包箱の中には本体と別に次の品物が入っていますので、ご確認ください。

① ターンテーブルシート……1
② ターンテーブル……1
③ ダストカバー……1
④ カウンターウエイト……1
⑤ ヘッドシェル(シェルアクセサリー)……1
⑥ ドライバー……1
⑦ 45回転レコード用アダプター……1
⑧ ご愛用者登録カード……1
⑨ 取扱説明書……1
⑩ 保　証　書……1

ご使用の前にお読みください

このプレーヤーの性能を十分に発揮させて、効果的にご使用いただくために、ご使用前に、この取扱説明書を最後までよくお読みのうえ、正しくご使用くださいますようお願い致します。なお万一、ご使用中にわからないことや、不都合が生じたときのために、お読みになったあと必ず保存してください。

使用上のご注意

1．検出用ヘッドおよび磁気コーティング面にご注意

スピード検出用ヘッドは、ターンテーブルの磁気コーティング面(裏側の内周の部分)と、非常に小さな間隔で対向する位置に取付けられていますので、絶対にネジをゆるめないでください。また、ターンテーブルのモーターシャフトへの取付け、取外しの場合は、磁気コーティング面に傷をつけないように、十分ご注意ください。なお、磁気コーティング面にマグネットを近づけたり、溶剤（シンナー、トリクレン、トルエン）でふいたりしますと、スピード検出用パルスを乱し、正確なスピードが得られなくなる場合がありますのでご注意ください。

2．トーンアームを動かすとき

このプレーヤーのトーンアームは高性能を得るために、精密機構部を多く備えておりますので、衝撃を与えたりねじるようなことはさけてください。特にヘッドシエル着脱の際などに、トーンアームを上下方向、回転方向の可動範囲以上に無理に動かさないようご注意ください。

3．ターンテーブルにご注意

ターンテーブルをはずしたまま、電源を入れたり、また演奏状態で、5分以上ターンテーブルを手などで強制的に止めたりしないでください。故障の原因となります。

4．設置場所にご注意

プレーヤーの設置場所は、直射日光を受ける場所、湿度の多い場所、ほこりのたちやすい場所は極力さけ、振動の少ない場所に水平にセットしてください。また、スピーカーとプレーヤーとを離して設置することをお奨めします。

5．注油の必要はありません

このプレーヤーのモーター軸受部には、特殊オイルが注入されていますので、注油の必要はありません。

6．留守にするとき

外出、旅行などで長時間ご使用にならないときは、必ず電源コードをコンセントから抜いておいてください。

7．殺虫剤や化学雑きんにご注意

一般市販の殺虫剤、ベンジン、シンナーなどが付着しますと、キャビネットやダストカバーなどが変色したり変形しますのでご注意ください。また、ほこりなどをふきとるときは、やわらかい布（シリコンクロスなど）を使い、化学雑きんの使用は避けてください。化学雑きんを使いますと、変色したり塗装がはがれることがあります。

8．ステレオの音量にご注意

楽しい音楽も、時と場所によっては気になるものです。隣り近所に対し、十分にご配慮ください。

9．チューナーに雑音が入るとき

本機をご使用中にチューナーに雑音が入る場合には、離してお使いください。

安全上のご注意

1．電源コードは大切に

電源コードは傷つけたり加工したりしないでください。傷つけたり加工した電源コードをご使用になると、感電や故障の原因になります。また、プラグを抜くときは、電源コードを引っぱらずに必ずプラグを持って抜いてください。

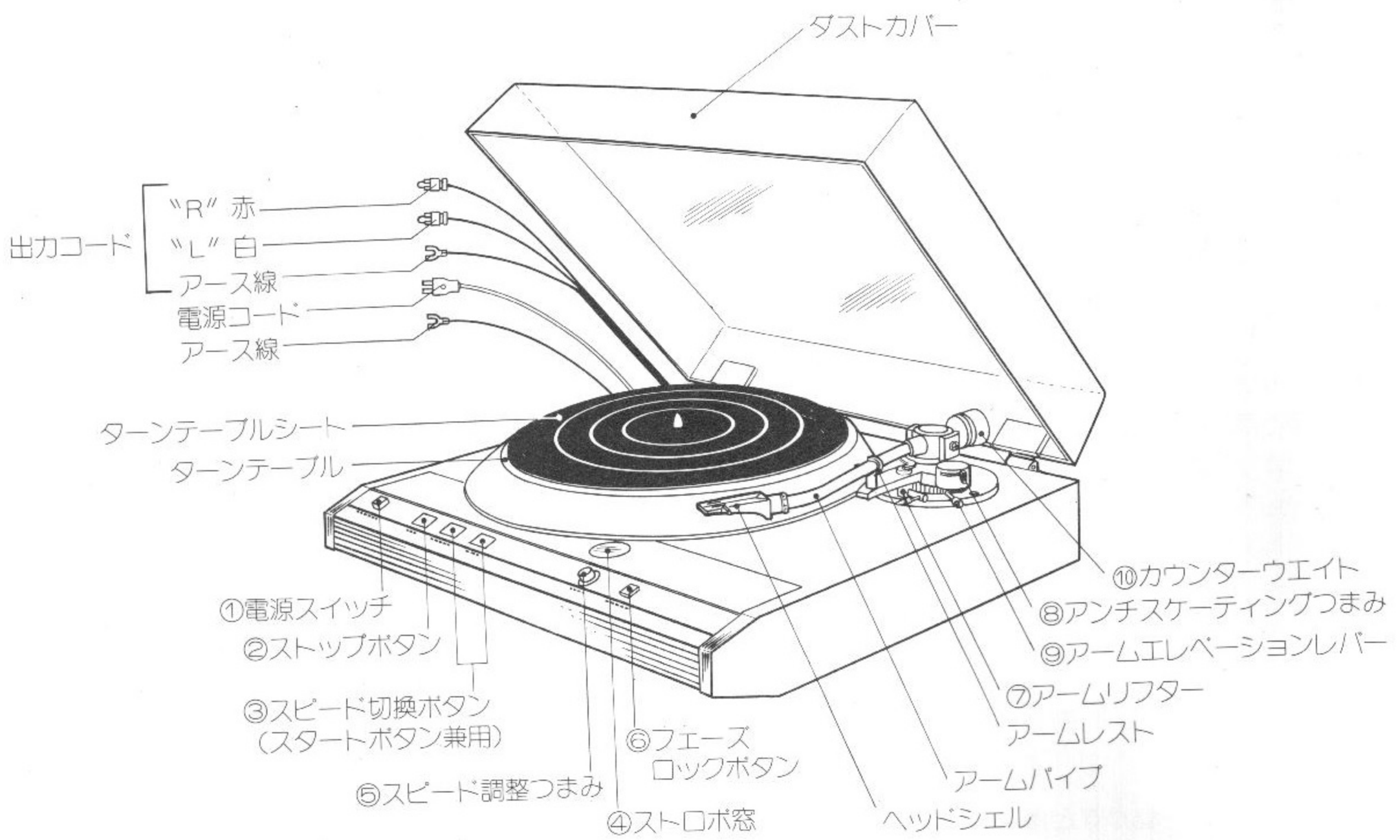
2．裏ぶたを開けないでください

感電防止のため、ネジ類をはずして裏ぶたを開けないでください。万一、不都合が生じた場合には、お買上げ店または最寄りの当社サービスセンター、または営業所にご相談ください。

3．内部に物を入れないでください

このプレーヤーの内部に金属物を入れたり、液体をこぼしたりしないでください。感電や故障の原因になります。

各部の名称と働き



① 電源スイッチ

電源スイッチをON(▬)、OFF(■)します。

② ストップボタン

このボタンを押しますと、ボタンのランプが点灯し、ターンテーブルが停止します。

③ スピード切換ボタン（スタートボタン兼用）

このボタンを押しますと、ボタンのランプが点灯し、ターンテーブルが所定の回転数で回ります。

33 1/3回転レコードの時は「３３」
４５ 回転レコードの時は「４５」

のボタンを押してください。

④ ストロボ窓

スピード調整の時、ストロボパターンを監視します。

⑤ スピード調整つまみ

⑥のフェーズロックボタンをvariable(■)にしてこのつまみを左右に回すとターンテーブルのスピードが変わります。

⑥ フェーズロックボタン

このボタンをnormal(▬)にしますと、③のスピード切換ボタンで選択したスピードで回転します。また、variable(■)にしますと、⑤のスピード調整つまみによって所定の回転数に対し±６％以上の可変ができます。

⑦ アームリフター

カートリッジの針をレコード盤面に降ろしたり、レコード盤面から針を上げるのに使用します。

⑧ アンチスケーティングつまみ

レコード演奏時、針先がレコード盤の内周に引っぱられる力が発生しますが、このつまみを調整することで、その力を弱めます。調整方法は８ページを参照してください。

⑨ アームエレベーションレバー

このつまみにより、トーンアームの高さが調整できます。調整方法は７ページを参照してください。

⑩ カウンターウエイト

これにより、カートリッジに加える針圧を調整します。調整方法は８ページを参照してください。

組　立

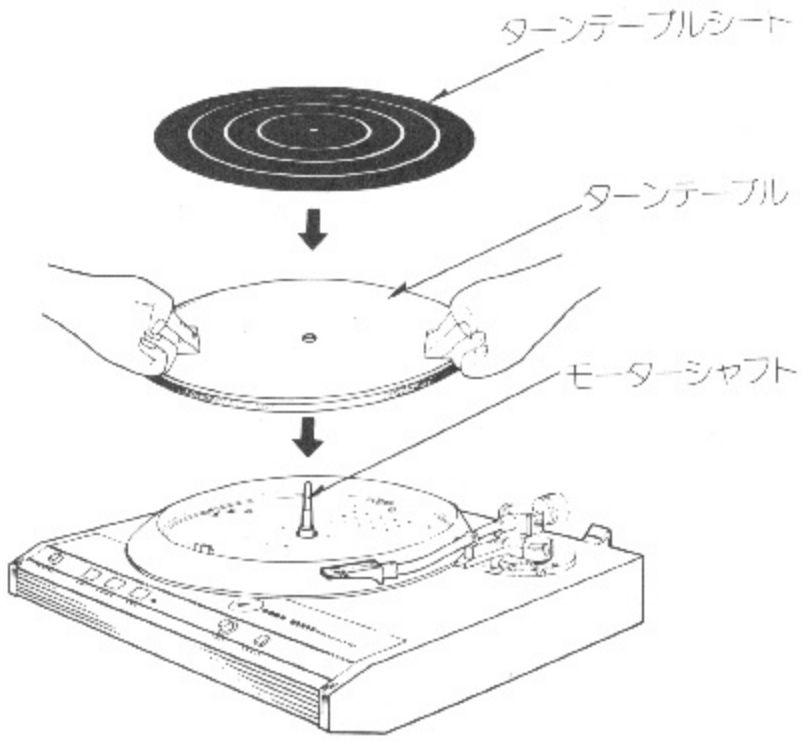
組立てが完了するまで、電源コードは接続しないでください。

1．ターンテーブルの取付け

❶ **第1図**のように、ターンテーブルの2個所の穴に手をかけてモーターシャフトに静かに差し込みます。なお、取り外す場合は、同じ要領で引き上げます。

◎ターンテーブルの磁気コーティング面（裏側の内周の部分）にはスピード検出用のパルス信号が記録されていますので、傷をつけないように注意して取り扱ってください。

❷ ターンテーブルを取り付けたのち、ターンテーブルシートをモーターシャフトに合わせて、のせてください。



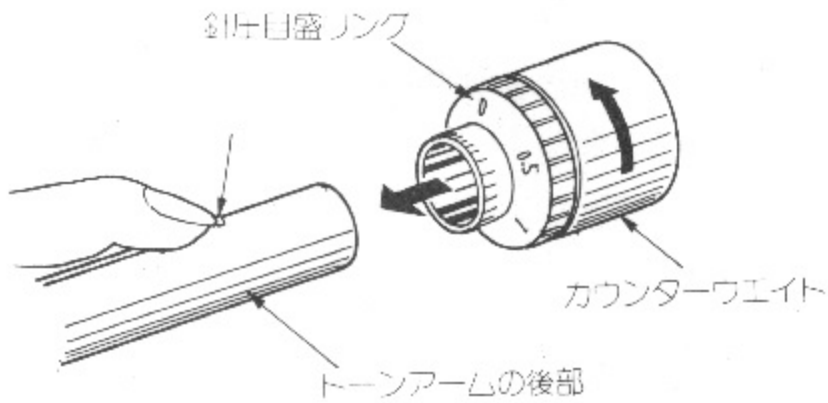
第1図 ターンテーブルの取付け

2．カウンターウエイトの取付け

❶ カウンターウエイトは、**第2図**のように針圧目盛リングを手前にして、アーム後部からノックピン（白い突起）の位置まで差し込みます。

❷ ノックピンを指先で押し込み、カウンターウエイトを軽く押して、ノックピンを目盛リングの下にかくします。

❸ ノックピンがかくれたら、カウンターウエイトを軽く押しながら**第2図**の矢印の方向に回しますと、カウンターウエイトは移動しますので、アームの後端がみえるまで移動させます。

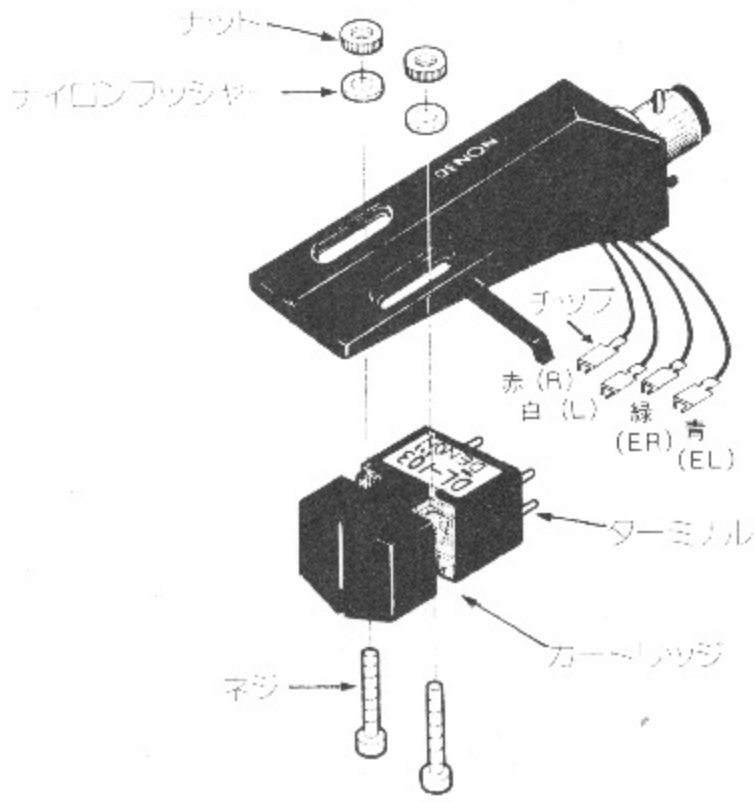


第2図 カウンターウエイトの取付け

3．ヘッドシェルとカートリッジの取付け

❶ ご使用になるカートリッジを本機に付属しているヘッドシェルに取り付けます。ヘッドシェルについているリード線は**第3図**のように色別けされています。カートリッジの表示（またはカートリッジの説明書）を参考にしてそれぞれ対応するカートリッジの端子にピンセットなどを使ってしっかりと接続します。

❷ カートリッジの取付用として長さの違う2種類のビスが付属していますから、カートリッジの厚みに合った長さのビスを選び**第3図**の順序でヘッドシェルに取り付けます。



第3図

❸ カートリッジを取り付ける際に最初、多少動く程度に軽くネジ止めしておき、シェルとカートリッジが平行になるように(**第4図**)、シェルとカートリッジが垂直になるように(**第5図**)調整し、また**第6図**に示す寸法にカートリッジの位置を調整してからしっかり固定してください。**第6図**の寸法の位置にカートリッジを取り付けると、トーンアームにヘッドシェルを取り付けたとき、所定のオーバーハングになります。

4．ヘッドシェルのトーンアームへの取付け、取外し

❶ **第7図**のようにヘッドシェルのコネクター部分のガイドピンをアーム先端のスリットに合わせて差し込みます。

❷ ロックナットを**第7図**の矢印の方向へ止まるまで回し、ヘッドシェルとアームをしっかり固定します。この際、アーム軸受部に過負荷がかからないように注意してください。

❸ ヘッドシェルを外す場合は、ロックナットを矢印と反対方向に回し、軽く引抜いてください。

5．インシュレーターの高さ調整

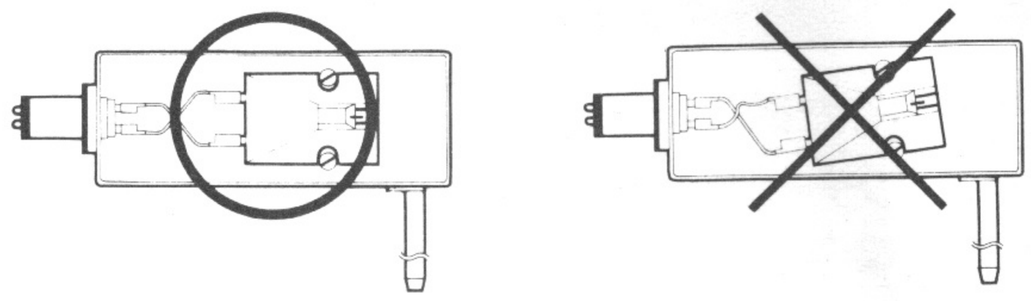
このプレーヤーのインシュレーター（ゴム足）は、手で回すことにより、それぞれ高さを調整できるようになっています。（**第8図**）

ご使用になる場所に置いて、ターンテーブルシート面が水平になるようにそれぞれのインシュレーターの高さを調整してください。

6．ダストカバーの取付け

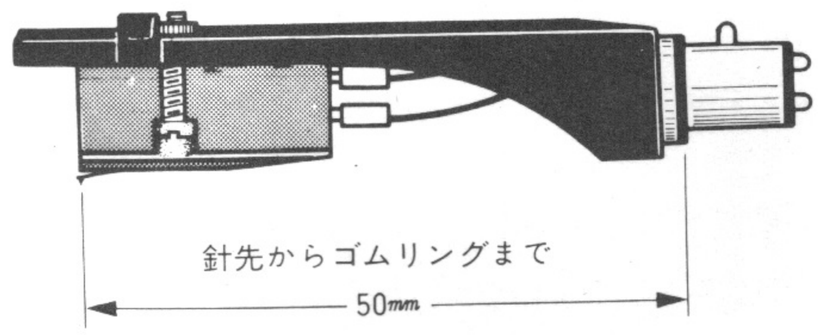
ダストカバーの金具の溝をヒンジの突起に合わせ、**第9図**の矢印の方向に十分押し込んでください。また、取り外す場合は、ダストカバーをいっぱいに開け、矢印と反対方向に引抜いてください。

◈ダストカバーの金具を十分にヒンジに押し込みませんと、ダストカバーが完全に閉まらなくなりますのでご注意ください。また、ダストカバーの取り付け、取り外しの際は、ダストカバーの金具の近くを持つようにしてください。

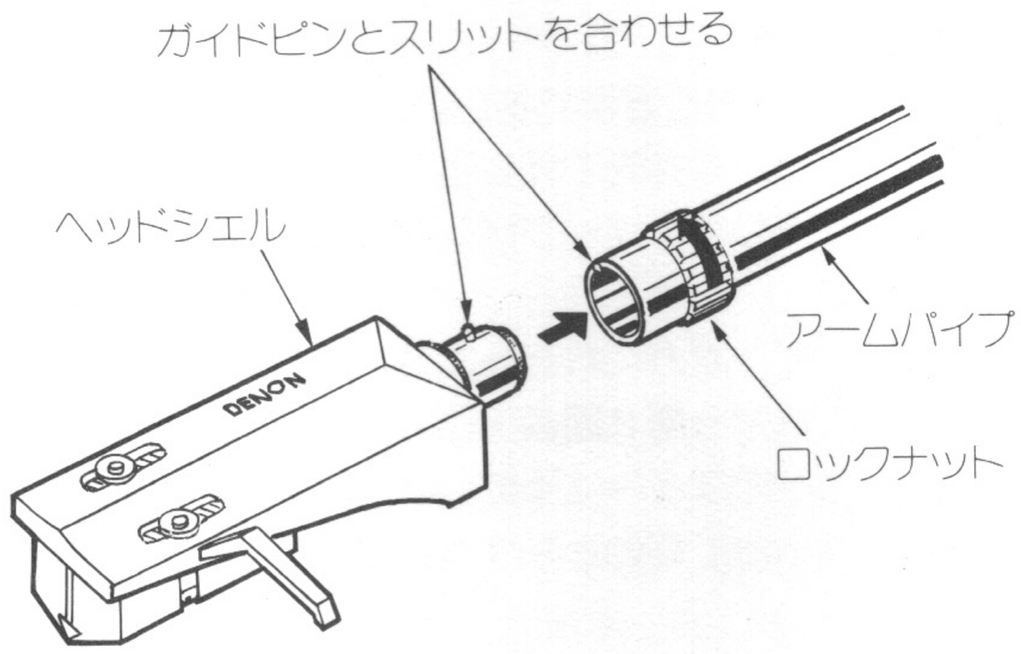


第4図

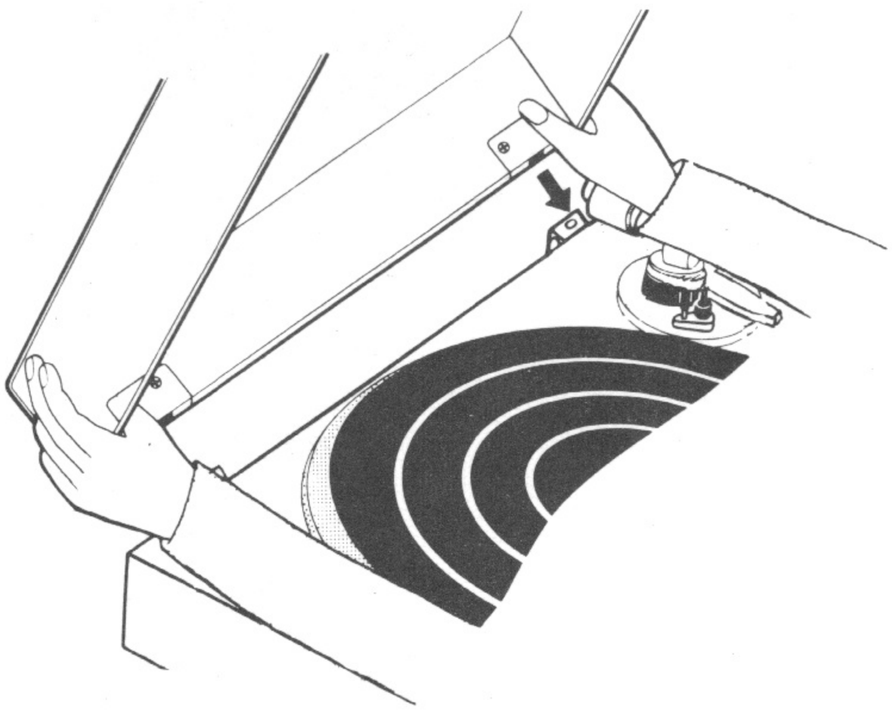
第5図



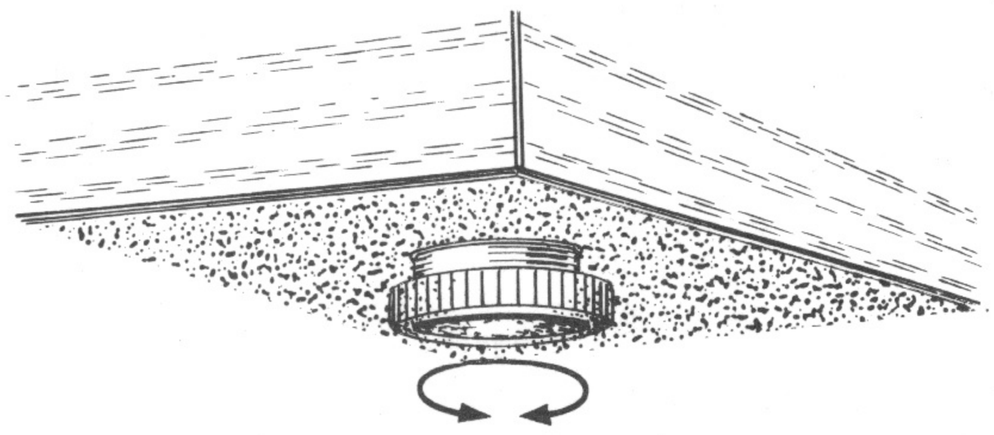
第6図



第7図



第9図



第8図　インシュレーターの高さ調整

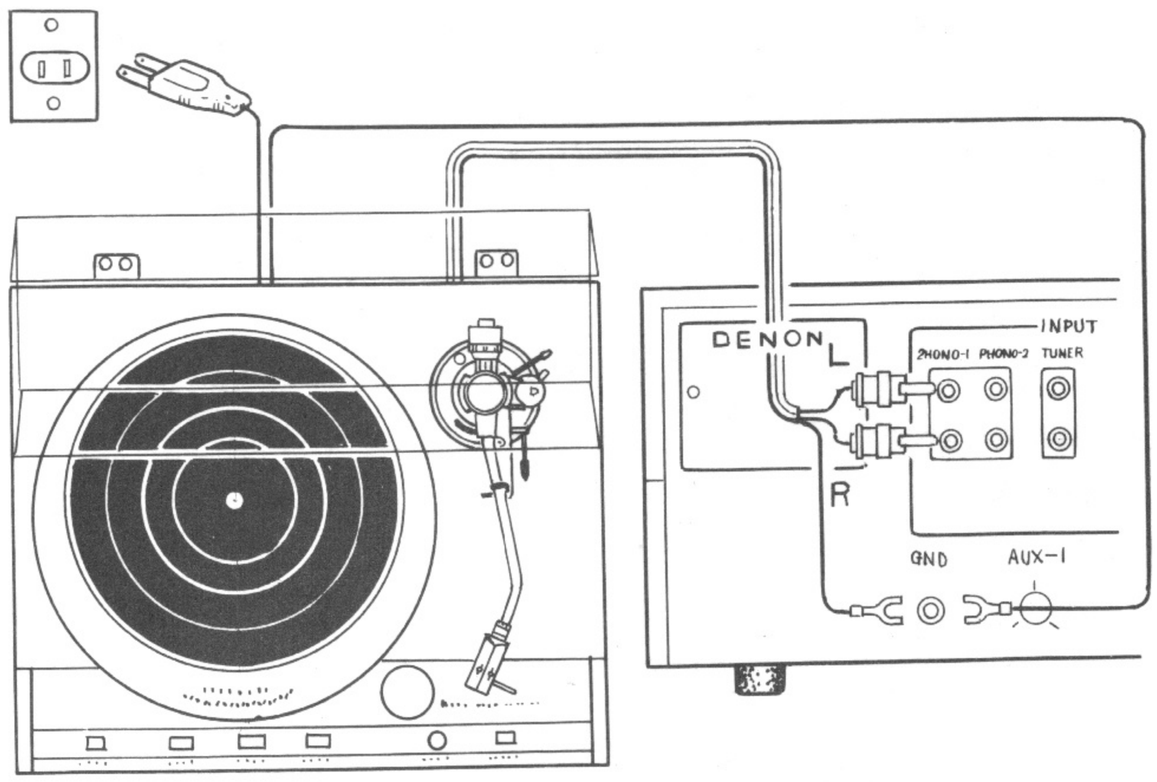
接　続

ご使用になるアンプとの接続は第10図のように行ってください

❶ 出力コードのピンプラグの赤(R)、白(L)を、アンプの「PHONO」端子のジャックR、Lにそれぞれしっかりと差し込みます。

❷ 出力コードと一緒になっているトーンアームのアース線、およびモーター部から出ているアース線のY型ラグを、アンプのGND(アース)端子にしっかりと固定します。

❸ 電源コードのプラグを交流100Vのコンセントへ、または、ご使用のアンプのACアウトレットへ差し込みます。



第10図　接　続　図

調　整

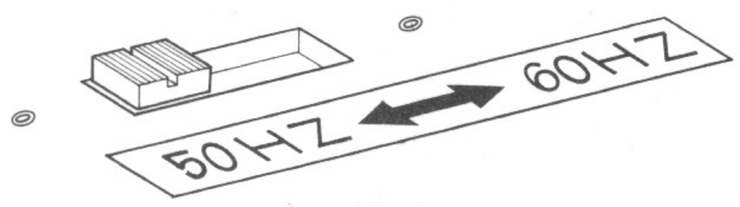
1．電源周波数の変更

50Hz地域用のものを60Hz地域でご使用になる場合、あるいはその反対に使用電源周波数が変更になる場合は、次のような調整が必要です。

❶ ターンテーブルをモーターシャフトからはずします。

❷ 電源周波数切換スイッチを新しい地域の周波数の表示の側に切換えます。

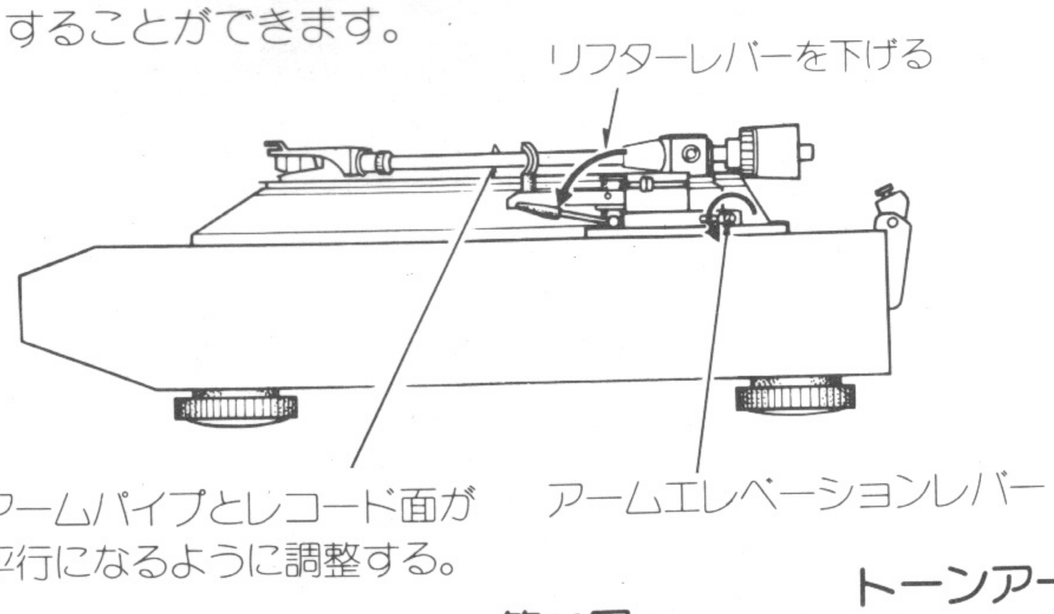
❸ ターンテーブルをモーターシャフトに挿入します。



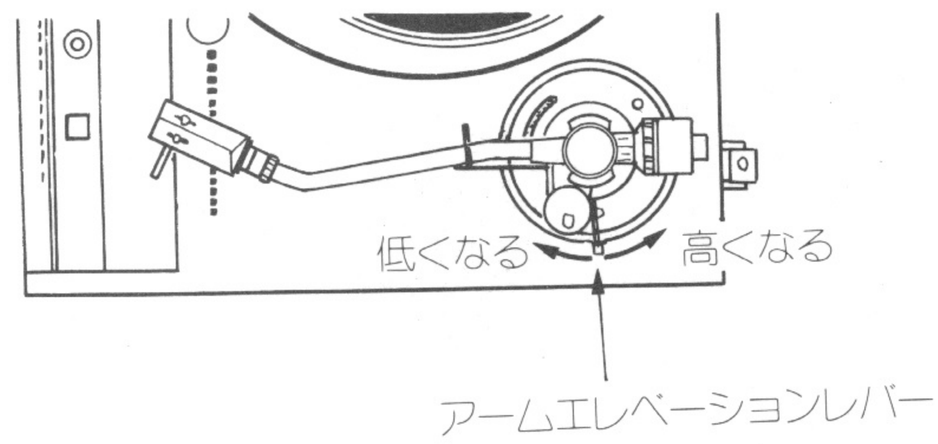
第11図　電源周波数切換スイッチ

2．トーンアームの高さ調整

第12図のようにリフターレバーを下げ、レコード盤上に針先を置き、アームエレベーションレバーをゆるめます。(**第12図** アームエレベーションレバーを矢印の方向にまわす)。次に**第13図**のようにアームエレベーションレバーを矢印の方向に回してレコード盤面とアームパイプがほぼ平行になるように調整してください。調整後はゆるめたアームエレベーションレバーを**第12図**の矢印と反対方向に回し、しっかりと固定してください。万一不充分の際は、付属のドライバーをご使用になりますとより確実に固定することができます。



第12図



第13図

トーンアームの高さ調整

3．針圧調整

つぎの手順で、適正針圧にセットしてお使いください。なお、不適当な針圧でレコードを演奏すると針とびを起したりして、良い音で聞くことができませんので、必ず適正針圧でご使用ください。

❶ アームリフターを下げます

❷ アンチスケーティングをOFFにします

アンチスケーティングレバーを回し、**第14図**のように、「OFF」目盛を基準線に合わせます。

❸ カウンターウエイトを回して、水平バランスを調整します

① カートリッジの針カバーをはずします。

② トーンアームをアームレストからはずします。

③ トーンアームから一瞬手を離した時、**第15図**のように、トーンアームが水平にバランスするように、カウンターウエイトを回して調整します。

◇この時、針先や、トーンアームを傷めないために必ず、一瞬そっと手を離すようにして、水平バランスを調べてください。

❹ 針圧目盛リングを回して、針圧をいったんゼロにします

① 水平バランスの調整が済みましたら、トーンアームをアームレストへ戻し、針カバーも取り付けます。

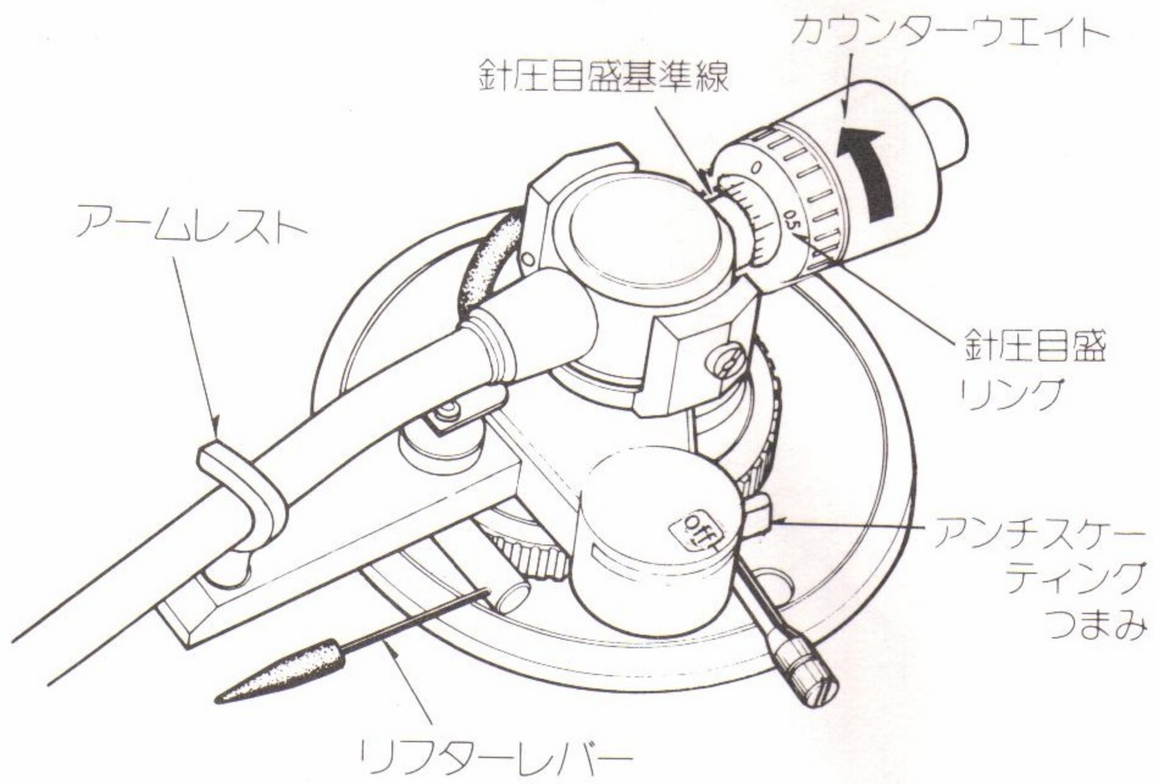
② 次に、カウンターウエイトが回らないように注意して、針圧目盛リングのみを回し、**第14図**のように針圧目盛リングの「0」目盛を、基準線に合わせます。（トーンアームの水平バランスが調整してありますから、この状態が、針圧ゼロとなります。）

❺ 再びカウンターウエイトを回して、針圧を加えます。

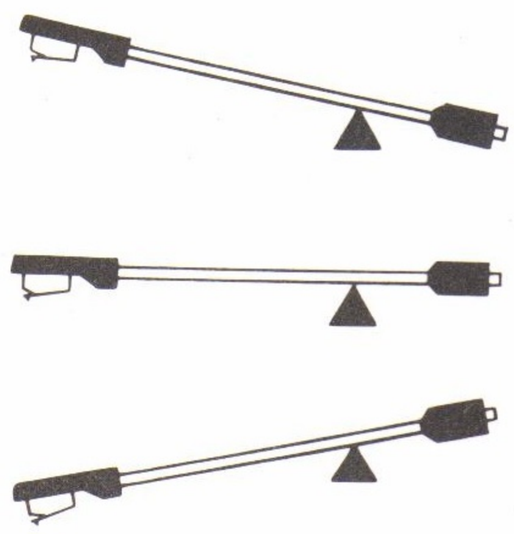
最後に、カウンターウエイトを**第14図**の矢印の方向に回して、ご使用になるカートリッジの適正針圧を基準線に合わせます。**第16図は**針圧を２ｇに調整した状態です。（カウンターウエイトを回すと、針圧目盛リングも一緒に回ります。針圧ゼロの状態からカウンターウエイトを矢印の方向に回した時、基準線の位置の目盛が、針圧を表わします。１目盛が0.1ｇです）。

4．アンチスケーティングの調整

アンチスケーティングレバーを回し、目盛の読みを、ほぼ針圧と同じ数値にします。目盛の読み方は、基準線の位置で読みます。適正針圧が２ｇのカートリッジの場合は、**第16図**のように「２」目盛を基準線に合わせます。



第14図　アンチスケーティングと針圧がゼロの状態

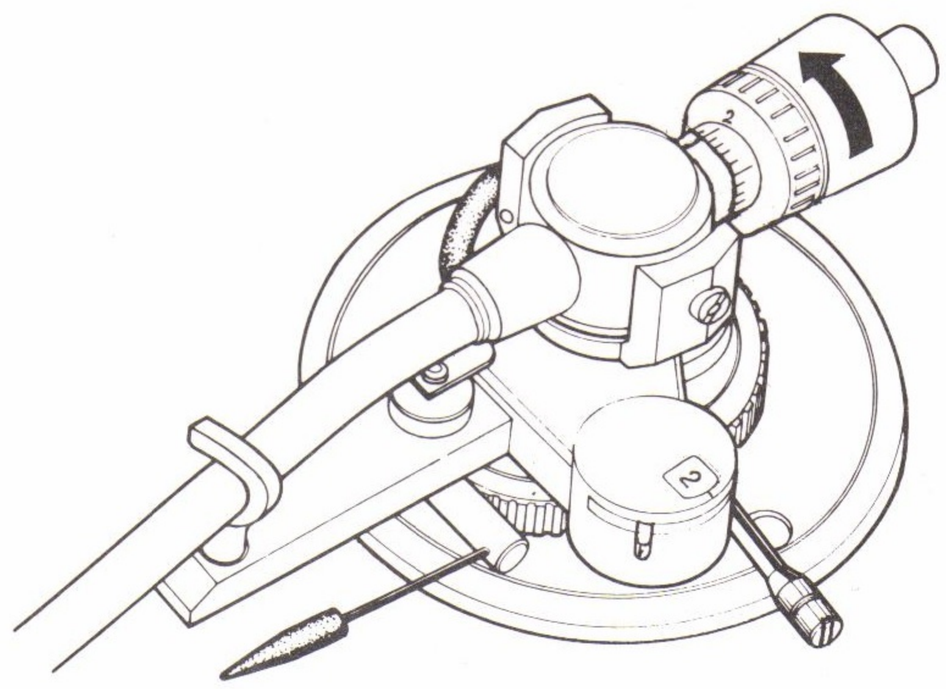


カウンターウエイトを**第14図**の矢印の方向に回す。

水平バランスが調整された状態

カウンターウエイトを**第14図**の矢印と反対方向に回す。

第15図　水平バランスの調整



第16図　針圧２ｇの場合アンチスケーティングを「２」に調整した状態

操作方法

❶ 電源のON・OFF

パワースイッチボタンを押しますと、電源が入りストップボタンのランプおよびストロボ窓のLEDが点灯します。なお、電源を切る場合はもう一度押してください。

❷ スピードの選択、およびスタート

33 1/3回転レコードの時は「３３」、４５回転レコードの時は「４５」のボタンを押しますと、押したボタンのランプが点灯し、所定の回転数で回転を始めます。

❸ ストップ

ストップボタンを押しますと「３３」または「４５」のランプが消え、ストップボタンのランプが点灯し、ターンテーブルの回転が止ります。

❹ スピード調整

フェーズロックボタンを「nomal」にしますと、(ボタンが押された状態)、回転スピードは固定となり、スピード選択ボタンで選択した33 1/3回転、あるいは４５回転で正確に回転します。この時ストロボは止って見えます。

◎本機の場合、50Hz、60Hz の電源周波数の違い、あるいは33·1/3回転、４５回転の回転数に関係なく、ストロボを点灯している電源は内蔵発振器により周波数を変換しているため、ストロボは１本です。

フェズロックボタンを「variable」にし（ボタンが上った状態)、スピード調整ノブを左に回しますと回転スピードは遅くなり、右に回しますと早くなります。スピード調整範囲は所定の回転数に対して±６%(約半音)以上の可変ができます。

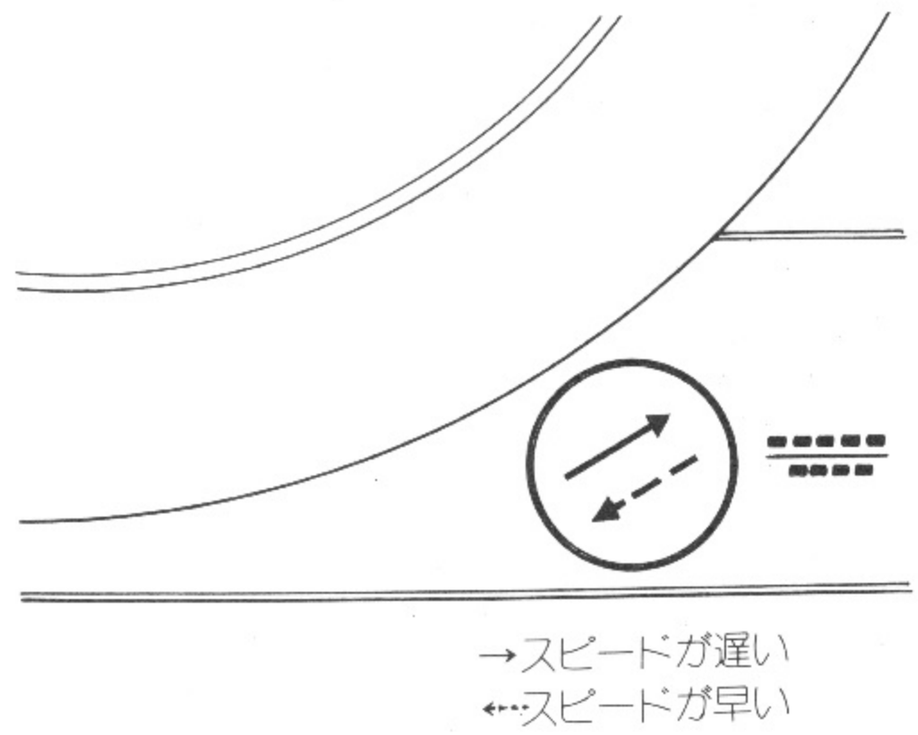
❺ リフターレバー

リフターレバーを上げておき、ヘッドシェルの指かけを持って針先をレコード盤上まで持っていき、リフターレバーを下げますと、オイルダンプ機構により針先はゆっくりとレコード盤上へおりてきます。

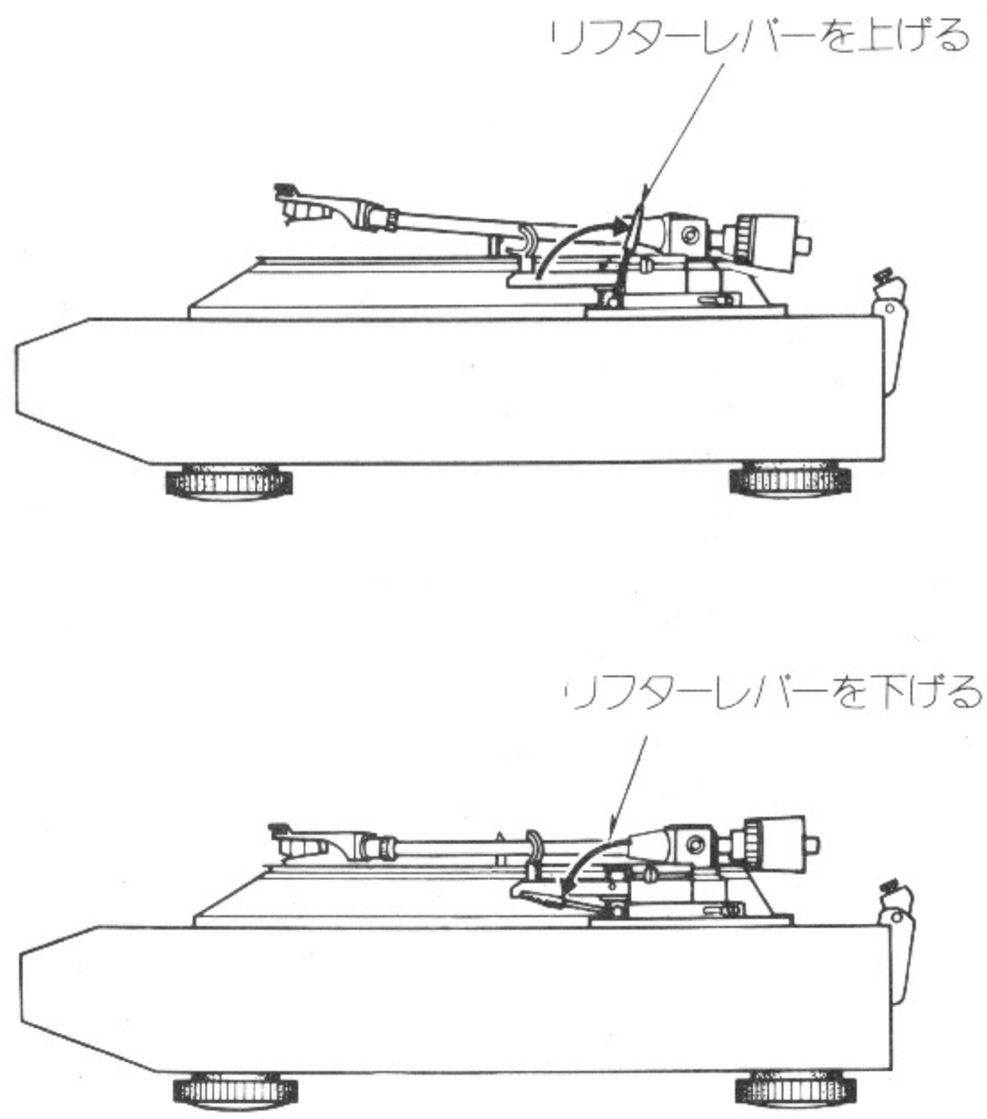
針先をレコード盤面から離したい場合はリフターレバーを静かに上げてください。（**第18図**）

◎リフターレバーを下げたとき、リフターレバーを手でおさえていますと、構造上リフターはさがりません。手をはなした時からリフターはさがりはじめます。

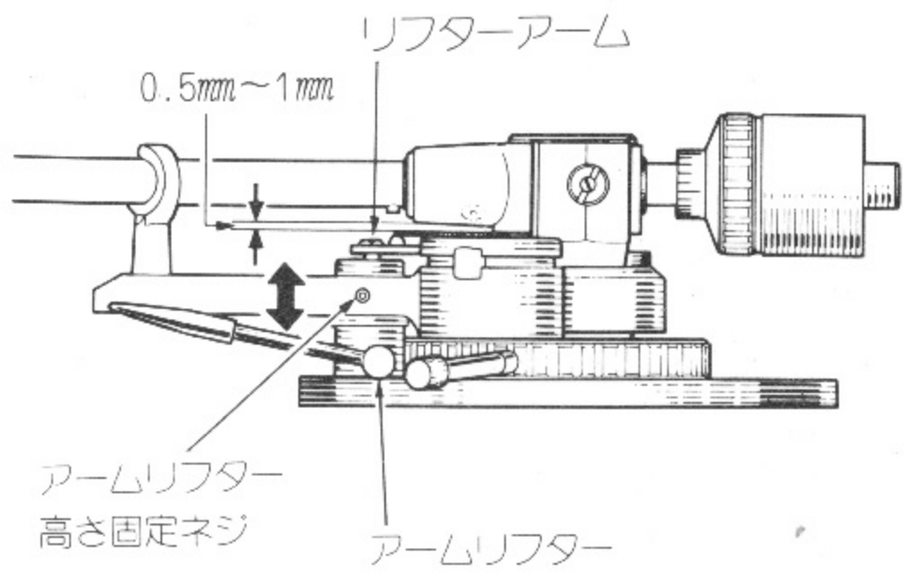
◎アームリフターは出荷時に調整されていますが、万一リフターアームが正常に動作しているにもかかわらずリフターレバーを下げてもカートリッジの針先がレコード盤上におりきらない場合、またはリフターレバーを上げても針先がレコード盤に触れている場合には**第19図**のように、アームリフター高さ固定ネジをゆるめ、アームリフターを上下し、リフターレバーを下げて針先をレコード盤上におろしたとき、リフターアームとパイプのスキ間が0.5㎜～1㎜離れるように調整してください。終りましたらゆるめたネジはもとどうりしっかり締めてください。



第17図　ストロボの流れ方向

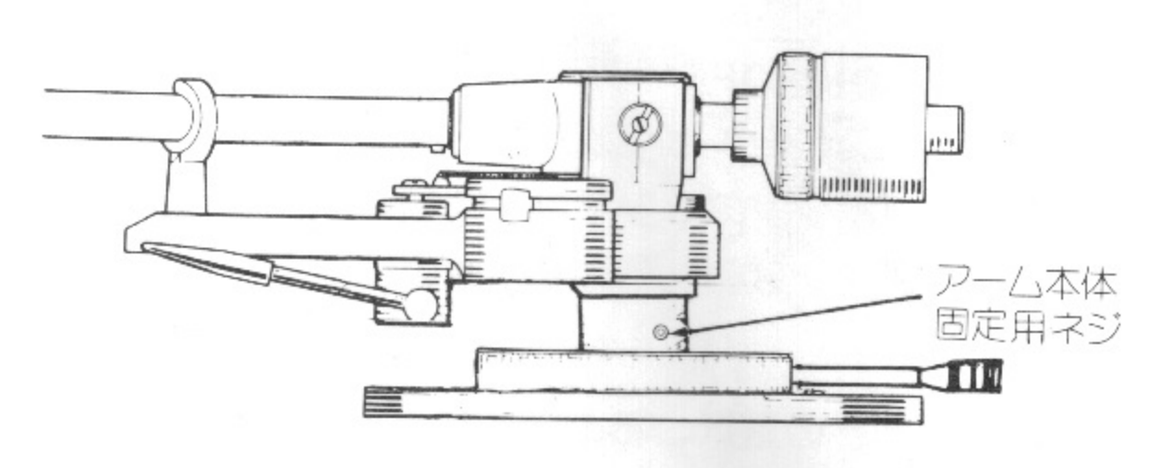


第18図　アームリフターの使い方



第19図　アームリフターの高さ調整

◎本機では当社トーンアーム（**DA-401**）との交換が可能になっております。交換の際な、まずキャビネット裏側から出力コードを引抜き、次にダストカバーを取りはずしてトーンアームの高さ調整（図12、13）の方法でトーンアームがいちばん高くなるまでエレベーションレバーを回します。**第２０図**でトーンアーム本体を固定しているマイナスネジ部（アーム中心に対して後側左右４５°の位置）が２ケ所見えてきますのでこのネジ２本を付属のドライバーでゆるめ、トーンアーム本体を持ち上げれば、ベースからはずすことができます。**DA-01**の本体（**DA-401**のベースは不要）をその後に差し込み、ゆるめたネジを締めつけます。なおネジを固定するときにトーンアーム本体のシャフトに位置ぎめ用の案内溝がありますので、溝とネジ部を合わせセットを正面からみて右側のネジからさきにしっかりと締めつけてください。



第20図　アーム本体が上がった状態

故障？　ちょっとお調べください

故障かな……と思ったら、ちょっと次のことをチェックしてみてください。

音が出ない……	●カートリッジとヘッドシェルの接続は正しいですか……	●５ページ**第３図**を参照
	●出力コードが正しくアンプに接続されていますか……	●７ページ**第10図**を参照
	●アンプのつまみ類の調整、切換えは正しいですか……	●アンプの取扱説明書参照
ハム雑音(ブーン)が出る……	●出力コードのアース線はアンプに接続しましたか……	●７ページ**第10図**を参照
	●ヘッドシェルはロックナットでしっかり固定されていますか……	●６ページ４項を参照
針とびを起こす……	●針圧が適正針圧になっていますか……	●８ページ参照
	●リフターアームがアームに触れていませんか……	●10ページ**第19図**を参照
	●レコード盤がそったり、キズが付いていませんか……	●レコード盤を交換
	●針先にほこりが多量についていませんか……	●針先を清掃
アームが途中で進まない……	●アームリフターの高さは正しく調整されていますか……	●10ページ**第19図**を参照
	●レコード盤にキズが付いていませんか……	●レコード盤を交換
	●アームが何かに当っていませんか……	●アーム周辺を点検
針先がレコード盤におりない…	●針圧は正しく調整されていますか……	●８ページを参照
	●リフターアームとアームパイプのすき間がありますか…	●10ページ**第19図**を参照
音が小さい……	●カートリッジの種類（出力）に適したアンプの接続、切換えになっていますか……	●７ページ**第10図**を参照

このレコードプレーヤーの保証および修理について

１．このレコードプレーヤーには、保証書が添付されております。保証書は、所定事項を販売店で記入し、お渡し致しますので、記載内容をご確認のうえ、大切に保存してください。
２．保証期間はお買上げ日より１年間です。保証書の記載内容により、お買上げ販売店が修理を申し受けます。その他詳細につきましては、保証書をご覧ください。
３．保証期間経過後の修理については、販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
４．このレコードプレーヤーの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打切後８年です。この期間は、通商産業省の指導によるものです。性能部品とは、このレコードプレーヤーの機能を維持するために必要な部品です。
５．なお、保証および修理について、ご不明の場合は、お買上げ販売店か、お近くの弊社「お客様相談センター」、または営業所、出張所（裏表紙のコロムビアサービス網一覧表をご参照ください）にご相談ください。

主な仕様

● フォノモーター部

駆動方式	ACサーボ・モーターによるダイレクトドライブ
回転数	33 1/3rpm。45rpm。
ワウ・フラッター	0.015%wrms以下（注）　0.02%wrms以下（JIS）
S／N	80dB以上（DIN-B）
起動特性	1.6秒以内で定速回転（33 1/3rpm時）
ターンテーブル	アルミダイカスト ＋ 亜鉛ダイキャスト　直径 308mm　自重 3.1kg 慣性モーメント 350kg・cm²（ターンテーブルシートを含む）
モーター	ACアウトローター型サーボモーター
スピード制御方式	周波数検出によるスピードサーボおよび位相サーボ併用 （variable時スピードサーボのみ）
負荷特性	0%（針圧 150g 最外周）
ブレーキ方式	電子式ブレーキ
回転数偏差	0.002%以下
回転数調整範囲	規定スピードに対し±6%以上

● トーンアーム部

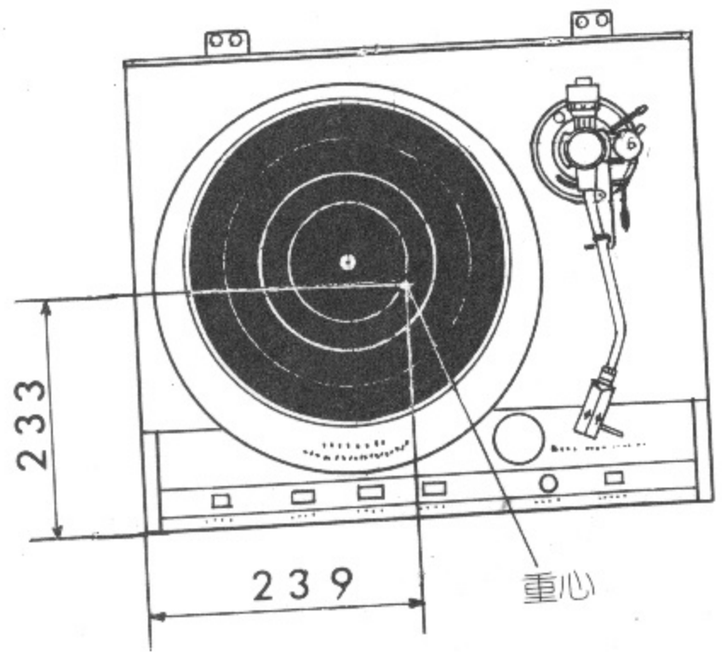
形式	スタティックバランス形ダイナミックダンピングトーンアーム
有効長	244mm
オーバーハング	14mm
トラッキングエラー	2.5°以内
針圧可変範囲	0～2.5g／1回転（1目盛 0.1g）直読方式
適合カートリッジ自重範囲	約13g～19g（シエル共）
ヘッドシエル	インパクト成型、硬質軽合金　自重9g（ネジ、ナットを含まず）
アーム高さ調整範囲	約42～51mm（キャビネット上面からアームパイプ中心まで）
ヘッドコネクター	EIA規格4Pコネクター
出力コード	低容量コード
アンチスケーティング機構	無接触式マグネチックコントロール方式
アームリフター	オイルダンプ式

● 総合

電源	AC 100V　50Hz／60Hz
消費電力	11W
寸法	(巾)490×(奥行)444×(高さ)161　〔単位mm〕（ダストカバーを閉めたとき）
重量	16kg

（注）磁気パルス円盤を用いたDENON測定法による。

※　上記の仕様および外観は、改善のため今後変更されることもあります。



コロムビアサービス網一覧表

弊社製品についてのお問合わせ、アフターサービスについてのご相談は、お買上げ店または最寄りの下記事業所へご連絡ください。

○札幌電機営業所	060	札幌市中央区北三条東2－2	TEL 札幌 011(代)(241)1541
釧路出張所	085	釧路市川上町6－2	TEL 釧路 0154 (23) 0491
旭川出張所	070	旭川市一条13 右9	TEL 旭川 0166 (26) 2421
函館出張所	040	函館市豊川町12－10	TEL 函館 0138 (23) 5668
帯広出張所	080	帯広市東一条南7－2	TEL 帯広 01552 (3) 9291
青森電機営業所	030	青森市青柳1－1－9	TEL 青森 0177 (75) 2781
八戸出張所	031	八戸市大字尻内町字鴨田5－1	TEL 八戸 0178 (27) 5325
秋田出張所	010	秋田市川尻御休町3－2	TEL 秋田 0188 (63) 3636
○仙台電機営業所	980	仙台市片平1丁目3－30	TEL 仙台 0222(代)(25)4341
盛岡出張所	020	盛岡市材木町4－30	TEL 盛岡 0196 (23) 6451～2
山形出張所	990	山形市幸町7－34	TEL 山形 0236 (22) 7614
郡山出張所	963	郡山市桑野1－20－11	TEL 郡山 0249(32)5234, 3145
石巻出張所	986	石巻市新内谷地37－2	TEL 石巻 02252 (2) 6518～9
○新潟電機営業所	961	新潟市上大川前通3番丁19－2	TEL 新潟 0252 (23) 6341
長岡出張所	940	長岡市日赤町2－4－40	TEL 長岡 0258 (35) 1755
松本出張所	390	松本市大手1－7－8	TEL 松本 0263 (32) 3673
長野出張所	380	長野市上千歳町1413番地	TEL 長野 0262 (34) 4125～7
○宇都宮電機営業所	320	宇都宮市駅前通り2－2－21	TEL 宇都宮 0286 (34) 6371
水戸出張所	310	水戸市栄町1－10－17	TEL 水戸 0292 (27) 3136～7
土浦出張所	300	土浦市大町11－31	TEL 土浦 0298 (21) 9221～2
○関東電機営業所	330	大宮市宮原町2－127－1	TEL 大宮 0486 (65) 2431
高崎出張所	370	高崎市上佐野町字樋越1089－1	TEL 高崎 0273 (23) 0220
熊谷出張所	360	熊谷市曙町1－53	TEL 熊谷 0485 (21) 1820
○千葉電機営業所	280	千葉市末広町3－17－17	TEL 千葉 0472 (63) 5921～4
船橋出張所	273	船橋市習志野町5－11－26	TEL 船橋 0474 (64) 4124～6
○東京サービスセンター	113	東京都文京区湯島3丁目16－11	TEL 東京 03(代)(832) 5121
東京中央電機営業所	113	東京都文京区湯島3丁目16－11	TEL 東京 03(代)(832) 5111
東京電機営業所	113	東京都文京区湯島3丁目16－11	TEL 東京 03(832) 5101
城南出張所	150	東京都渋谷区神宮前6 12 20東洋ビル	TEL 東京 03(400) 0241
○立川電機営業所	190	立川市富士見町1－12－1	TEL 立川 0425 (23) 1471
○横浜電機営業所	232	横浜市中区松影町1－4－7	TEL 横浜 045(代)(681)8221
相模原出張所	228	座間市相模台753－1	TEL 相模原 0427 (42) 5466
横須賀出張所	239	横須賀市根岸町3－118－3	TEL 横須賀 0468 (36) 4311
小田原出張所	250	小田原市浜町3丁目11－12	TEL 小田原 0465 (22) 9271
○静岡電機営業所	422	静岡市馬渕1丁目5－12	TEL 静岡 0542 (85) 9111
沼津出張所	410	沼津市西熊堂147－3	TEL 沼津 0559 (21) 3677
浜松出張所	430	浜松市向宿町692番の6	TEL 浜松 0534 (61) 4707

○名古屋電機営業所	450	名古屋市中村区祢宣4－9	TEL 名古屋 052(代)(583)1621
岡崎出張所	444	岡崎市六名町字南郷中111	TEL 岡崎 0564 (53) 2515
岐阜出張所	500	岐阜市梅河町2－21	TEL 岐阜 0582 (65) 0168
四日市出張所	510	四日市市中町11－6	TEL 四日市 0593 (52) 8161
金沢電機営業所	921	金沢市横川町6－14	TEL 金沢 0762 (42) 7151
富山出張所	930	富山市下新北町3－42	TEL 富山 0764 (31) 6631
福井出張所	910	福井市宝永2－8－24	TEL 福井 0776 (22) 2949
○京都電機営業所	600	京都市下京区中堂寺庄の内町46－15	TEL 京都 075 (314) 2811～5
○大阪サービスセンター	542	大阪市南区末吉橋通り3－2	TEL 大阪 06(代)(245) 3081
大阪中央電機営業所	542	大阪市南区末吉橋通り3－2	TEL 大阪 06(代)(245) 3061
大阪電機営業所	542	大阪市南区末吉橋通り3－2	TEL 大阪 06(代)(245) 3071
和歌山出張所	640	和歌山市太田町老人島756	TEL 和歌山 0734 (72) 3688～9
阪南出張所	590	堺市大浜北町3－110 ダイトクビル	TEL 堺 0722 (21) 7847
○神戸電機営業所	651	神戸市葺合区御幸通4丁目1－5	TEL 神戸 078 (231) 0451
姫路出張所	670	姫路市今宿1577－1	TEL 姫路 0792 (92) 7775
岡山電機営業所	700	岡山市野田3－10	TEL 岡山 0862 (41) 2657
倉敷出張所	710	倉敷市笹沖433	TEL 倉敷 0864 (22) 6625
○広島電機営業所	730	広島市幟町3－63	TEL 広島 0822(代)(21)4321
福山出張所	720	福山市紅葉町2－34	TEL 福山 0849 (22) 2073
徳山出張所	745	徳山市新宿通り3丁目－21	TEL 徳山 0834 (22) 1051～3
松江出張所	690	松江市西津田町407－1－2	TEL 松江 0852 (21) 5440
○四国電機営業所	760	高松市亀岡町1－60	TEL 高松 0878(代)(61)4993
松山出張所	790	松山市天山町149－1	TEL 松山 0899 (31) 3218～9
高知出張所	780	高知市伊勢崎町7－18	TEL 高知 0888 (72) 4178～9
○北九州電機営業所	802	北九州市小倉北区馬借2－6－7	TEL 北九州 093(代)(521)6581
大分出張所	870	大分市新川町1－10－7	TEL 大分 0975 (34) 7546
宮崎出張所	880	宮崎市祇園町237	TEL 宮崎 0985 (24) 1515
○福岡電機営業所	812	福岡市博多区店屋町1－35	TEL 福岡 092(代)(271)4911
久留米出張所	830	久留米市上津町1690-2第二江崎ビル	TEL 久留米 0942 (22) 2122
佐世保出張所	857	佐世保市大和町202	TEL 佐世保 0956 (31) 3208
長崎出張所	852	長崎市橋口町19番9号	TEL 長崎 0958 (44) 1201
熊本出張所	860	熊本市本山町627	TEL 熊本 0963 (53) 3316
鹿児島出張所	892	鹿児島市武町933	TEL 鹿児島 0992 (56) 7281
沖縄コロムビア販売株式会社	901-01	那覇市小緑1－18－4	TEL 那覇 0988 (57) 0770

●本社お客様相談センター　TEL 東京03(584)8111　内線317
(〒107)　東京都港区赤坂4－14－14

○印には「お客様相談センター」の窓口がありますのでご相談ください。

所在地・電話番号は変更になる場合がございますのでご了承ください。

日本コロムビア株式会社

本社　〒107 東京都港区赤坂4－14－14　TEL 03－584－8111

1980/4/1

79. 10　5118118106
Printed in JAPAN